



かぶき者けんか図(豊国祭礼図屏風より) 岩佐又兵衛筆
〔パネル展示〕(徳川美術館蔵、©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom)



かぶき公家供揃図



女かぶき図(歌舞伎図巻 下巻より)
〔パネル展示〕(徳川美術館蔵、
©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom)

古田織部と慶長年間のかぶき者

脇指 肥後大掾下坂(初代越前康継)作

(織部が最期に所持していた二刀の名刀と同手のものを展示。西蓮(鎌倉後期)・初代越前康継(江戸初期))

太刀 西蓮作

江戸初期の慶長年間(1596-1615)、京ではかぶき(傾き)者(いたづら者)の文化が一世を風靡していました。なかでも、「かぶき手の第一」(『当代記』)といわれたのが、織田信長の甥・織田左門頼長(道八)です。また、公家の世界では、「天下無双」の美男と称され、ファッションリーダーでもあった猪熊少将教利、彼と親しかった烏丸光広などの若い公家たちの行動が「猪熊事件」へと発展します。さらに、「天下一」の茶人だった古田織部が好んだ、奇抜で大胆な意匠の茶器や斬新な取り合わせも、数寄の世界でかぶきの精神を表現したものといえるでしょう。本展では、織部好みの茶器や刀、織田頼長の書状、猪熊事件に連座した公家衆の直筆短冊などの品を通して、かぶいた武士・公家衆の人物像を探ります。



織田道八(頼長)手造 茶碗



朱漆塗 総髪形兜

(織田頼長が大坂城内で遊女にかぶらせた総髪形兜と大手と考えられるもの)



織部肩衝茶入(「十蔵」銘有)
(有来新兵衛が駿河の土を用いて作った茶入)



織部向付(裏面・和歌有)
(京都市考古資料館蔵)

2017年 1月21日〔土〕— 5月14日〔日〕 21 Jan 2017-14 May 2017

〔開館時間〕 9:30~17:30(入館は17:10まで) 〔休館日〕 会期中無休

〔入館料〕 大人500円 / 大学生・高校生400円 / 中学生以下300円 / 団体(15人以上)100円引

〔次回展観〕 5/20〔土〕~9/18〔月・祝〕 「後水尾天皇と東福門院和子の茶の湯」

〔後援〕 京都新聞

一般財団法人



古田織部美術館

The Museum of Furuta Oribe

古田織部美術館

検索 click

〔住所〕 京都市北区上賀茂桜井町107-2 地下1階 〔電話〕 075-707-1800

〔交通案内〕 【公共交通機関をご利用の場合】 市営地下鉄烏丸線北山駅下車4番出口右折徒歩3分

【お車で越しの場合】 JR京都駅より30分 / 京阪出町柳駅より10分 / 阪急河原町駅より20分

